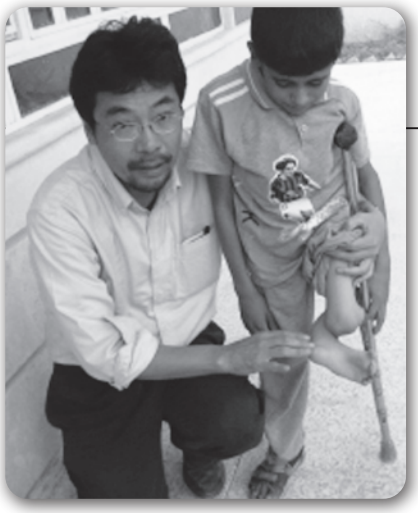
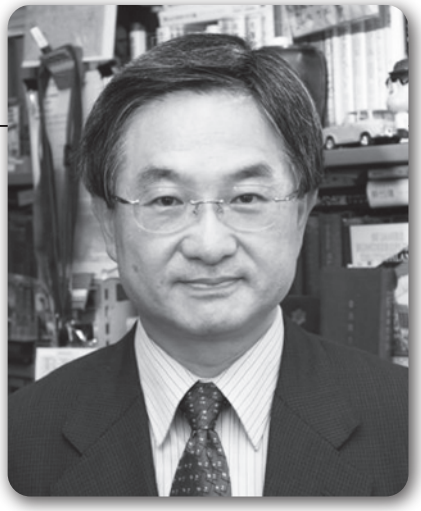
2001年9月11日の同時多発テロ事件。
アメリカは、「テロとの戦争」をかかげ、10月にアフガニスタンを。2003年3月にはイラクを武力攻撃。日本は、これを支持し、テロ特措法（2001年）、イラク特措法（2003年）を相次いで成立させて、インド洋やイラクへ自衛隊を派遣。両国では多くの人々の命が失われ、国土は荒廃するばかりです。一日も早い平和的な解決を求める声が世界に広がっています。
自衛隊はインド洋、イラクから撤退しましたが、自衛隊の海外派遣の恒常化、武器輸出規制の緩和、非核三原則の見直しなどが検討されています。
アフガニスタン、イラクの現状や、「新防衛計画大綱」の内容を知るとともに、「武力で解決できるのか?」「日本にできることは?」など、いま私たちに何が問われているのかを考えます。



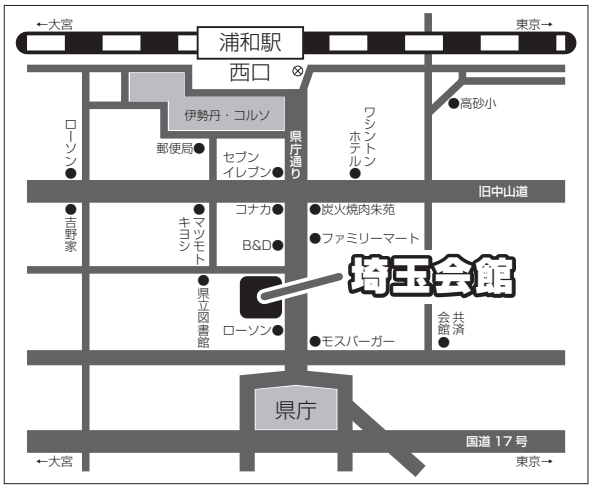
西谷（にしたに） 文和（ふみかず） 氏

1960年生まれ。大阪府吹田市役所勤務を経てフリージャーナリストへ。イラクやアフガニスタンを取材し、テレビ朝日系『報道ステーション』などで戦争の悲惨さを訴えている。NGO「イラクの子どもを救う会」代表として現地の子どもへ医療・食糧支援を行なっている。2006年度平和協同ジャーナリスト基金大賞を受賞。2010年10月に、自身6度目となるアフガニスタン取材を終えた。「イラクの子どもを救う会」HP <http://www.nowiraq.com/>

水島（みずしま） 朝穂（あさほ） 氏



1953年東京都府中市生まれ。早稲田大学教授。専門は憲法学、法政策論、平和論。浦田賢治（早稲田大学名誉教授）門下。博士（法学）（早稲田大学、1997年）（学位論文「現代軍事法制の研究ー脱軍事化への道程」）。平和主義、日本国憲法第9条を中心に研究を行う。NHKラジオ第一放送「新聞を読んで」レギュラー（1997年〜）。



JR京浜東北線浦和駅(西口)下車　徒歩6分
上野駅から各駅停車で27分
大宮駅から各駅停車で8分